

2023年度第3回契約監視委員会議事要旨

1. 日 時:2024年4月11日(木)13:25～15:30
 2. 場 所:JAXA東京事務所 地下階 B101、B102、B103 会議室
各拠点の TV 会議端末拠点及び Teams
 3. 出席者:横山委員長、大久保委員、長沢委員、田澤委員、三宅委員、小林委員
(※大久保委員は米国から Teams によるリモート参加)
 4. 審議概要:
 - (1)2023年度第2回契約監視委員会議事要旨の報告
事務局より前回委員会議事要旨について報告があり、了承された。
 - (2)2023年度調達等合理化計画のフォローアップについて
調達部より、2023年度調達等合理化計画自己評価等について、一者応札・応募に関する取組及び物品・役務の合理的調達に関する取組等について説明があった。委員から、一者応札が続いている案件について、随意契約にできる基準等を設定し業務の効率化やコストダウンを図る検討を行うべきであるとの意見があった。
これに対し、次回、2024年度の調達等合理化計画を提案する際に検討するとの回答があった。
 - (3)2023年度第3四半期に新規に締結した契約の点検
2023年度第3四半期に新規に締結した随意契約及び一者応札・応募となった案件のうち、契約金額が大きいもの、高落札率であったものを中心に点検を受けた。その結果、問題となる契約はなかった(個別案件ごとの点検内容は別紙のとおり)。
- その他
- ・次回の委員会は、6月17日(月)に開催することとした。

第3回 2024年4月11日

競争性のない随意契約			3件	① 再使用ロケット設計用モデル開発環境整備_MATLAB_Simulink 永久ライセンス及び保守(2024年1月から1年間)の調達 ② 次世代の電源システム基盤技術獲得に向けた要素技術検討(その1) ⑤ 月周回有人拠点(ゲートウェイ)搭載装置の構造設計に係る技術調整支援
競争入札	一般競争	価格評価	2件	③ 2023 年度 種子島宇宙センター貯蔵所系設備老朽化更新 ④ 2023 年度～2024 年度 標準スマートフォン試行に伴うサービスの提供

- ① 再使用ロケット設計用モデル開発環境整備_MATLAB_Simulink 永久ライセンス及び保守(2024 年1月から1年間)の調達 [競争性の]ない随意契約]

本件は、革新的将来宇宙輸送システム研究開発プログラムで進める推進系のモデルベース設計として、自動車業界との今後の連携を見据え、自動車業界で利用の多い MathWorks Inc 社製 MATLAB/Simulink を設計ツールの基本として調達を行うものである。契約者は、MathWorks Inc 社製品を同社が定める日本国内向けの直接販売価格(定価価格)にて販売することが可能であり、JAXA にとって有利な価格で販売できることから、契約事務実施要領 第 69 条 第 1 項(タ)(随意契約によれば、時価に比べて著しく有利な価格をもって契約をすることができる見込みがあるとき)を適用し随意契約としたとの説明が担当者よりあった。

委員から、「カ」(特定の販売業者以外では提供することができない物件の買入れ、借り入れ又は保守を行うとき)や「ク」(契約の相手方が法令又は当該契約の前提となる他の契約条件等により明確に特定されるとき)ではなく、「タ」を選択した理由は、卸売業者からの購入も可能であるためかとの質問があった。また、直接販売価格が間接(代理店)販売価格よりも著しく有利な価格といえるとは限ら

ないので、その都度の確認が必要との指摘があった。

これに対し、他の業者からも購入する選択肢がある以上は、「力」「ク」ではなく「タ」を選択しているとの回答があった。また、何をもって「著しく有利な価格」と判断できるのかについては、(2)項の随意契約の基準を設ける指摘と合わせて検討していく旨の回答があった。

②次世代の電源システム基盤技術獲得に向けた要素技術検討(その1)

[競争性の]ない随意契約]

本件は、宇宙開発利用加速化戦略プログラム(スターダストプログラム)「次世代の電源システム基盤技術獲得に向けた検討」(令和5年度～6年度)の受託に基づき、我が国の衛星の低コスト化、電力高効率化、小型軽量化(高収納化)、高信頼化を実現するために必要な基盤技術として、①デジタル電源、②高性能バッテリー、③フラットパック太陽電池パドルについて、目標仕様の策定、技術課題と対策案の抽出及び要素技術開発を行い、得られた成果・課題等を整理した上で、その後の実用化開発の実現案を提示することを目的として、文部科学省からの受託事業として実施するものである。本業務の実施にあたっては、委託元の要求仕様として設定された目標を達成するためには特許の技術が不可欠であり、各コンポーネントは指定された特許の技術を使用することを前提に構成されているため、該当する特許を有し、または特許出願済みで、当該特許を使用して次世代の電源システム基盤技術獲得に向けた要素技術検討を実施できることが必要である。提案業者は、当該特許を保有し、または特許出願済みであり、当該特許を使用して次世代の電源システム基盤技術獲得に向けた要素技術検討を実施可能である。また、提案業者は当該特許を独占的に保有し他人にその利用を許諾していないことから、本業務を実施できる唯一の事業者であり、「(産業財産権及びプログラム著作権等の保有者が他人にその利用を許諾していない場合又はその利用権者が単独である場合であってその者と産業財産権及びプログラム著作権等の利用を伴う物件の製作、役務の請負、物件の買い入れ又は借り入れをするとき)(契約事務実施要領第69条第1項(イ)を適用))随意契約としたとの説明が担当者よりあった。

委員から、固体電池の研究開発を行う企業と、組立を行う企業の切り分けがどうなっているかと、該当する特許の範囲についての質問があった。

これに対して、固体電池の研究開発は別企業が担当しているが、固体電池も含めた組立は、その特許を持つ本契約先が担当していること、また特許の範囲については組立に関するものである、との回答があった。

③ 2023 年度 種子島宇宙センター貯蔵所系設備老朽化更新

[一般競争・価格評価方式]

本件は、種子島宇宙センターの今後も安定した打ち上げ、燃焼試験を継続するため、安全上・性能上の観点から、老朽化による必要設備の更新を実施するものである。

本契約は、複数企業への公告開始や作業内容の概要説明、応札の検討を促し、可能な限りの公告期間を確保し実施したものの、応札者は結果として一者応札となったものであるが、引き続き、可能な限りの公告期間の確保や複数企業への声掛けの実施などの対応を実施していくこと、また、高落札率になった理由については、労務費が中心で市場価格等が存在しないものと考えることから、応札者からの参考見積書をもとに作成したため、参考見積額に近い金額が予定価格になったため高い落札率になったものと推察するが、今後も参考見積書の内容を適切に評価・査定し、社会・経済情勢も考慮しながら適切に対応すること、との説明が担当者よりあった。

委員から、実施可能な業者が他にないのであれば、初めから随意契約にするという選択はなかったのか、また、当該設備の製造企業が参入しやすい実施時期の調整や分割して発注する等の工夫は可能だったのか、との質問があった。

これに対し、製造を担当した企業等、実施可能な業者が他にもあるため、随意契約に移行するのは規程上できないものと考えていること、実施時期の調整や分割して発注については、参入のしやすさよりも老朽化対策を急ぐ必要のある設備に優先度をつけて発注しているところであること、が回答された。今回は、当該設備の製造企業が落札困難とみたため一者応札となった経緯もあることから、事前にコスト比較を行う等、随意契約のあり方を含め、改善検討していくよう、委員よりコメントされ、対応する旨の回答があった。

④ 2023 年度～2024 年度 標準スマートフォン試行に伴うサービスの提供

[一般競争・価格評価方式]

本件は、全役職員に配布している標準携帯電話のうちの一部(470 台)をスマートフォンに機種変更して利用するものである。

本契約は、標準携帯電話の運用において継続的に電波改善を行ってきたため、JAXA 事業所・社屋内において標準携帯電話の当該キャリアの電波は入るが、それ以外のキャリアの電波状況が悪い箇所が多数あり、業務に支障が出るため標準携帯電話のキャリアの回線を使ったサービスであることが必須である。入札前に MVNO サービス業者(※)に問い合わせたところ、標準携帯電話のキャリアの回線を使うサービスの提供は可能とのこと。標準携帯電話と同様のサービス(国内通話・Eメール・海外でも国内と同じ電話番号で通話が可能なこと)が必須のため、

MVNO サービス業者の場合は標準サービスとは別に何らかの方法を検討する必要があるが不可能ではないとのことで競争入札としたが、結果としては一者応札となったとの説明が担当者からあった。

委員から、別のキャリアの電波状況の改善について状況確認があり、次の調達に向けて調整していくとの回答があった。

⑤ 月周回有人拠点（ゲートウェイ）搭載装置の構造設計に係る技術調整支援
[競争性のない随意契約]

本件は、月周回有人拠点（ゲートウェイ）搭載装置の構造設計に係る技術調整支援として、装置の開発完了および安全審査（フェーズ 3）までの期間、JAXA が行っている I-HAB（ゲートウェイ居住棟）搭載装置の設計・開発における構造設計（フラクチャコントロールを含む）に関する以下の作業を実施するものである。

- ① JAXA が作成する構造・フラクチャコントロール関連計画書の作成、調整支援
- ② I-HAB 搭載装置の構造・破壊管理要求適合性審査（SFCB）活動支援
- ③ I-HAB 搭載装置の構造・破壊管理要求適合性審査事務局支援
- ④ I-HAB 搭載装置の構造設計/解析評価（フラクチャコントロールを含む）改善

本契約は、8回入開札を行ったが、予定価格を下回らず、応札者と随意契約のための商議を行い、予定価格の制限内に達したため契約締結（不落随意契約）した。不落随意契約へ至った考察としては、ゲートウェイ居住棟プロジェクトの構造・破壊管理要求適合性審査（SFCB）の活動支援に係る契約は今回が初回であり、作業規模の推定が難しく、応札企業とプロジェクト側の想定工数に差異が発生したことにより、応札額が予定価格内に収まらず、8回の入札で落札しなかったものと考えたとの説明が担当者よりあった。

委員から、他に考えられる企業はどのくらいあるのか、最初から随意契約にする検討はされていたのかとの質問があった。

これに対して、調達仕様書の中で作業要求を定め、一定の技術力があれば、実施可能であろうということから、入札を判断したが、随意契約の可能性については、今後、類似の契約を締結する際には検討するとの回答があった。

以 上